

(2) 「道徳の時間」の多様な指導法

授業のねらいを達成するには、授業を好きにさせることが重要である。全国的には、校種、学年が上がるにつれ「道徳の時間」を「楽しくない」「ためにならない」と感じている傾向にある。(平成15年度道徳教育推進状況調査より)

一方、本校が今年度6月に行った調査では「道徳の時間は好きだ」と答える生徒が67% (県平均55%)、「道徳の時間はためになる」と考える生徒が84% (県平均63%)であった。このことは多様な指導を心がけてきた一定の成果だと考えている。以下、その工夫の概略について述べる。(県平均は平成21年度県基礎学力調査より)

「道徳の時間」の一般的な指導過程は、導入・展開・終末の3段階で、私たちの授業研究もそこを出発点とした。中学生という発達段階には、ねらいとする価値にせまるための思考ができる十分な力があると考えられる。しかしながら、現実には道徳的価値を教え込む授業におちいることが多かった。道徳オリエンテーションやネームプレートの活用などを通して、生徒たちがそれぞれに思いを持ち発表する雰囲気づくりを行ってきた。しかし、友達の意見を聞き、比較・検討しながら、自分の考えを深めたり意見をからめたりする学び合いにはいたらず、平板な授業からの脱却に苦しんだ。それは、以下の2つによるところが大きい。

- ねらいが抽象的・観念的で、発問数が多く、かつ表層的な問いかけでとどまる。
- 生徒は思春期をむかえ、自分の心のうちを素直に表現しようとしにくい。

道徳教育の要が「道徳の時間」であることを自覚するほど、この課題は深刻であった。解決には至らないが、毎週3コマの授業研究を重ねながら、現在のところ以下の結論にたどりついている。

ア) 展開を「価値を理解する」「価値を深める」の2段階に分け、4段階の指導過程として意識する。さらに発問の精選をはかることで、自己の生き方をより重ねて考えることができる。

イ) 展開2の「価値を深める」段階では、「そんなことわかっている」という知的理解を、気づきを通して「私ならば・・・」という実感・納得に高める。この変化が道徳的実践につながる。

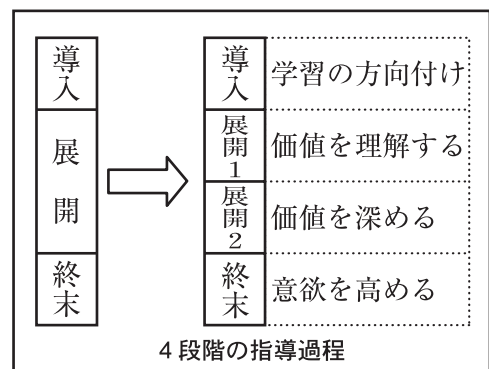
ウ) そのためには、切り返しの発問などで、発言の背景にある思いや経験を引き出す。併せて「道徳の時間」のねらいをより具体的に表記すれば、発問や学習活動を焦点化しやすい。

エ) 導入の工夫や資料提示の工夫が、話しやすい雰囲気づくりを可能にする(実践例参照)。

オ) 座席配置は、お互いの意見をつなぎやすくするために「コの字型」を基本とする。学習活動や資料の生かし方によって、小グループになったり、黒板に正対させたりと弾力的に対応する。

カ) 学びの足跡が一目でわかる板書となるように、ねらいを表現するキーワードを中心にすえるようにする。

発問カードや写真、生徒の発言を適切に分類・配置する。



実践1 導入の工夫（生徒アンケートの結果を利用した授業）

日常の教育活動を道德教育の視点で見直すと、授業に活用できるものは意外と多い。調査やアンケートの類は、その代表的なものである。

主題名	いじめを許さぬ強さ	内容項目	4 - (4)
資料名	私もいじめた一人なのに 中学生の道德1 自分を見つめる（暁教育図書）		
ねらい	学級や学校生活の中にあるいじめを、断固として許さない心を行動で表す意欲を培う。		
展開	○鵜川中学校で現在いじめられていると感じている人はどれくらいいるだろう。 （この数字を見てどう思うか） ○菌回しが続いたのはなぜだろう。 ◎「彼女」が毎日花を育てていなかったら、いじめてもいいのだろうか。 ○「私」はどうして涙を流したのだろう。		



「悩み・いじめに関するアンケート」の集約結果を導入に活用した。学校全体として「いじめはない（少ない）」と思っていた1年生が、4人に1人がいじめられた経験があるという事実には驚いていた。この驚きが、資料の内容を身近なものとしてとらえることにつながった。その後開催した生徒会主催の「いじめ追放集会」では宣言文の採択や意見発表に積極性が見られた。

実践2 多様な資料の活用と提示の工夫

内容項目にせまる新聞記事や雑誌の記事、絵本や漫画のひとコマ、ヒット曲など生徒が興味を引く素材がある。また日常生活や伝統的なしぐさの中にも道德的価値を見出すものがある。

新聞記事は読みやすくタイムリーに活用できる。感動的なストーリーの漫画も多数あり中学生の心をつかみやすい。これらの素材を適切に提示できれば、話しやすい雰囲気づくりにつながる。



主題名	生命の尊重	内容項目	3 - (2)
資料名	ぼくのおばあちゃん（なかむらみつる ぴあ）		
ねらい	大切な人の死を通して、人の命の大切さを考えさせる。		
展開	○寝たきりになったおばあちゃんのために僕が考えた計画とはなんでしょう。 ◎「ともちゃん、どんなに悪いことをしても怒ったりしないから……」おばあちゃんは何んといったと思いますか。 参考資料（とっておきの道德授業Ⅲ 日本標準）		

資料として絵本の一部を利用した。デジタルカメラで必要なページを撮影し、スライドショーで黒板に映写して生徒に提示した。本文は印刷せず教師が朗読した。副読本以外の資料だったり、機材を持ち込んだりするだけで生徒たちは興味を持つ。発問と同じく、使用する画像を絞って提示することで生徒が自分の考えを持つ時間を保障するよう心がけた。授業後は絵本を学級文庫に加えておくと、手にとって反芻している生徒の姿が見られる。

感想1 「…でも悲しかったです。いつも自分を見守ってくれた人がなくなったら悲しくて涙が止まらないだろうなあ～と思った。」

感想2 「自分のばあちゃんは元気だけど、のちのち体を壊したりしたら面倒を見ようと思った。話の中のばあちゃんは若干家のばあちゃんに似ているので、死ぬ間際に同じことを言うんじゃないかなと思った。」